

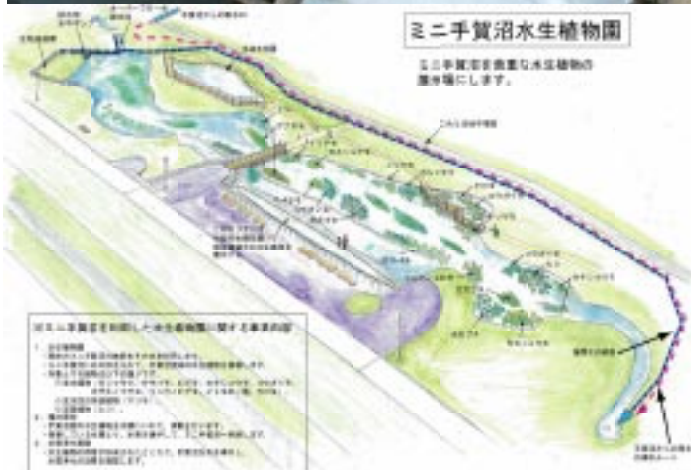
手賀沼ガシャモク通信

No. 7

ミニ手賀沼へガシャモク・ササバモを移植

手賀沼親水広場にあるミニ手賀沼を水生植物の豊かな湿性植物園に整備する事業を進めている。坂田池湿性植物園(横芝光町)などを参考に、手賀沼起源の沈水植物が身近に見られる水辺を目指すもの。

2009年10月18日(日)に、広く市民に参加を呼びかけて、手賀沼起源の沈水植物移植が行われた。事前に水抜きして浮泥を除去したミニ手賀沼に、多くの市民の手で植えられたガシャモク、ササバモなどが無事に活着することが期待される。



↑ あらかじめ水抜きしてヘドロを除去し、アメリカザリガニを駆除したミニ手賀沼を、移植の舞台とした。

これまで生息していたコイは希望者を募って配布するなどして引っ越ししてもらった。コイは水底を掘り返すような採餌様式のため、移植初期には沈水植物の稚苗に大きな影響を及ぼす恐れが大きいため。

この日は、手賀沼起源のササバモ等を植えた。しかし、ミニ手賀沼は手賀沼のすぐ横にあり、ザリガニが容易に移動できるほか、沈水植物を食べるカモ類がたくさんいるので、食害対策が必須となる見込み。粘り強い移植作業の繰り返しと定期的な維持管理が必要と考えられる。



手賀沼産沈水植物を手賀沼親水広場水の館と

千葉県立中央博物館にて保護育成

埋土種子から再生した手賀沼起源のガシャモクをはじめとする各種の沈水植物株が数多く得られている。これらの遺伝的多様性を維持し、永く保護育成するための栽培水槽を整備した。危険分散の趣旨から同じ種・株を手賀沼親水広場水の館および千葉県立中央博物館の2箇所に設置することとした。それぞれに1トン容の樽型水槽を複



数配置して、中に出所の明確な手賀沼起源の沈水植物を植栽した。

植栽は、植え替えや移植が容易となるよう11号素焼き鉢を4基設置して、それぞれに沈水植物を移植した。同手法は、印旛沼起源の沈水植物保護にて実績を挙げているもので、今後の維持管理手法なども先例を応用可能の見込み。

今後、両機関の協力を得ながら継代を目指すこととなった。

(2009.10.30)



手賀沼ビオトープで埋土種子を探索

手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会が中心となって、2010.1.24に我孫子市の手賀沼ビオトープ横の沼岸を1m程掘り下げる作業を実施した。

露出した地層断面から、粘土質の層を選んで土を採取し、埋土種子の有無を探索した。また、掘り出した土の一部を、手賀沼フィッシングセンターおよび千葉県立中央博物館に運び、配置したバット水槽（トロ舟）に撒きだして、埋土種子からの発芽能を検証する試験栽培を実施することとした。



掘った穴の中をのぞいたところ



この「手賀沼ガシャモク通信 7号」は、「手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会」の会報「手賀沼マシジミ・ガシャモクだより」60号、61号から記事を一部抜粋して編集しています。

手賀沼ガシャモク通信 No. 7

平成 22 年 2 月 20 日発行

手賀沼水環境保全協議会

事務局

〒 260-8667 千葉市中央区市場町 1-1 千葉県環境生活部水質保全課湖沼浄化対策室

電話：043-223-3821 E-mail：suiho5@mz.pref.chiba.lg.jp